

羽田七福いなりめぐり

多摩川の河口、羽田空港に程近い場所で、7つの稲荷神社を参拝して1年の福徳を願う、そんな風習があると知り、それならば！と早速足を運んでみることにしました。



1 東官守稲荷神社
(荻中1・5・18・身体安全)
スタートは京浜急行空港線荻谷駅。昔懐かしい店構えに気持ちも和む荻谷商店街を抜け、



荻中通りにはいと荻中神社に到着。境内の奥にはお目当ての東官守稲荷神社。昔は海に向かって建てられ、海の仕事の安全を祈る守護神として村人たちの信仰を集めていたそうです。

2 妙法稲荷神社
(本羽田1・12・9・招福厄除)
元氣な子供たちの声が出る出雲小学校のちょうど裏手辺りに発見！

境内の松の太木には白蛇が棲み、神の使いと云われたことから、蛇稲荷とも呼ばれ信仰を集めていたそうです。

3 重幸稲荷神社
(本羽田1・7・14・開運長寿)
たびたび起った多摩川の氾濫から田畑を守り、五穀豊穡を祈って村人たちによって建てられたのがこの神社。ここだけなぜ周より少し高台にあるのかと思えば、社前の道路は旧六郷土堤で、現在の社の高さが旧堤防の高さであったとされたこと！ナルホド！

4 高山稲荷神社
(本羽田3・12・2・学業成就)
一度多摩川へ出て、風も気持ちがいよいよサイクリングロードを歩き、本羽田公園の手前で土手を降りると赤い鳥居が見えてきた！ 飛騨高山の大山工よ

が、つて建てられたことから高山稲荷と呼ばれるようになったそうです。



5 鷗稲荷神社
(羽田6・20・10・開運招福)
産業道路の下をくぐり再び多摩川沿いを河口に向かって歩くと、右手に羽田の渡し跡を記した石碑。さらに進み左手に見える住宅街の狭い路地を入っていくとつきあたりにもまたまた赤い鳥居が！

その昔、漁師たちが祈願をすとかもめが飛来し大漁であったと云うことから、かもめを大漁の兆しとして崇め、以後鷗稲荷と呼ばれるようになったそうです。

6 白魚稲荷神社
(羽田5・27・8・無病息災)
潮の香りを感じながら多摩川の河口を背にして、今度は海老取川沿いを少し上る。この七福いなりめぐりも終わりに近づいている様子。

多摩川の砂利砂採取が行われるようになった頃、この事業に従事する人たちの信仰を受け、社頭は大いに盛んであったそう。また、この付近は昔わらぶき屋根が多く、漁師町特有の建て込んだ家並から、火事が起らないよう祈願する人も多く火伏せの神様としても信仰があったそうです。

7 穴守稲荷神社
(羽田5・2・7・家内安全、交通安全、心願成就、商売繁盛)
ここが七福いなりめぐりのゴール！

さすが終点ともいって立派な境内。元々は風浪の害から守るため、今の羽田空港の敷地内に祀られていたのだが、昭和20年終戦後アメリカ軍による空港拡張のために現在地に遷座したこと。しかし終戦当時から数々の神秘的現象が起ったため恐れられ、取り壊されず活きた大鳥居は、今でも空港の入口に聳えている。空の安全を願って訪れる人も多く、飛行機の絵が刺繍された旅行安全守は特に人気だとか。



総距離約5.5km、
時間にして約2時間。



その昔、この辺りは半農半漁の人たちが多く暮らしていた場所のため、それぞれの神社も生活に根ざした信仰を集めているのが興味深い。今でも地域に根ざした神社の雰囲気が残っており、なんともほのぼのとしてしまう。

毎年1月1日から5日までの5日間、各神社で御朱印を受けて7つ集めると、ゴールで記念品(お神酒など)がもらえるとのこと。1年の幸福を願い、昔を偲ばせる町の雰囲気になりながら、ふらっと立ち寄るお店で休憩したり、多摩川の風にあたりながらほっとできる散歩も悪くない。しかも最後はお酒つき！



さて、今回は残念ながらその時期ではなかったので仕方ない、羽田沖で獲れた魚と羽田の主人の語りをつまみに一杯いこう！
(事務局 永井佐代子)

ちょっと寄道

羽田は多摩川と東京湾の水が混ざりあって良いプランクトンが発生するため、魚が美味しいそう。昔は多種にわたる魚介類が捕獲されたそうだが、今でもハゼやアイナメ、アナゴなど獲れるのだとか。大田で水揚げがあったとはビックリ！

●千世
羽田3-2-4 03-3744-1590
主人自ら、店を開ける前や休日に漁に出て羽田沖で釣り上げた新鮮なタコ料理をいただけるお店。そのため水揚げされたかどうかの事前確認が必要かも。

●食通ゆたか
羽田4-22-9 03-3741-2802
東京湾で獲れた江戸前の魚にこだわった天ぷら屋さん。店内には著名人の色紙が飾られており、地元でも有名な和食処だとか。